

2022年度 高等学院同窓会学術研究奨励金  
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)

高等学院長  
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [ 鈴木涼之介 ]

学年・組・番号 [3年 E組 8番]

研究課題: 山村社会におけるマタギの存在意義-阿仁町の旅マタギを例に-

(英文) The Significance of Matagi's Existence in Mountain Village Society: An Example of Ani's Travel Matagi

研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200~400字で記入してください)

昨年の同窓会奨励研究では、山村社会の情報伝達をテーマに秋山郷という山村集落を訪れた。ここでは、マタギと呼ばれる独自の狩人がいたことや、秋山郷マタギの源流が秋田県阿仁町にあることが分かった。また、秋山郷のマタギは外部交流において重要な役割を担っていた点を考察した。これらの調査結果より、阿仁町のマタギが持つ地域的役割に興味をもった。先行研究ではマタギの文化(言葉や狩猟方法など)を整理したものは多いが、地域社会とマタギの関係性について考察されたものは少ない。そこで、本研究は山村社会におけるマタギの地域的役割から存在意義を明らかにすることで、マタギの保存活動に貢献できると考えた。調査方法としては、文献調査を中心に進める。しかし、前述のとおり、文献調査では不十分な点が多い。そのため、阿仁町での実地調査を行ない、多方面からの検証を試みる。

研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200~400字で記入してください)

実際に現地に赴き、出かせぎの出発地と到着地の関係にあたる阿仁町と秋山郷それぞれの資料館に展示されたマタギ関連資料を比較することで、阿仁町の狩猟技術が秋山郷に伝達されたことが分かった。よって、阿仁町の旅マタギに見られる出かせぎといった外部交流は、山村の狩猟水準を高めた点において、重要な働きであったと考えられる。この点から、秘境と評される奥深い山村において、自由に山野を動いたマタギの存在は極めて重要であったと考えられる。一方で、出かせぎに伴うマタギの地域的役割と予想される地域経済との関係には疑問が残る。今回の調査では、仕送りがあった程度のことしか分からず、旅マタギの現金収入の実態についても大雑把なことしか分からなかった。今後は出かせぎ先に焦点を当てながら、旅マタギの仕送りの回数や具体的な収入額などを見ていき、山村社会の地域経済におけるマタギの役割についても調査したい。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 鈴木涼之介

研究分担者

担当教諭 本木弘悌 (受給額: 25000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します  
(次のページに続きます)

**研究成果写真：**

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

**「とねんぼ」の外観**



**「マタギ資料館」の外観**

